



# オンライン語り部LIVE 2023

語り部LIVEの様子はこちら!



参加費  
無料



東日本大震災から12年を迎える中、当時を知らない子どもたち、幼かった子どもたちも小学生・中学生・高校生と成長しています。日本赤十字社宮城県支部は、JRC加盟校の子どもたちに被災地の想いを繋ぎ災害発生時には自分のいのちをしっかりと守ることができるよう

公益社団法人3.11メモリアルネットワークと協働して、

**語り部さんの生の声をZOOMで配信します。**

子どもたちが  
災害を**自分事**として考えられる!



感想用紙で  
「自分の言葉にする」  
振り返りができる!



全国のJRC加盟  
小学校～高校と一緒に  
視聴できる!

## JRC語り部LIVEを取り入れた防災教育例

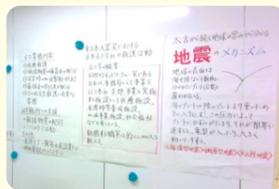


**【徳島県 阿南市立橋小学校】**  
お話のポイントを先生が板書し、子どもたちの感想を模造紙にまとめたり、まち歩きで安全・危険な場所をチェック。トンガ噴火に伴う津波警報が出た際には、子どもたちが保護者とともに高台に避難するという行動にも繋がりました。

**【熊本県 山都町立蘇陽中学校】**  
生徒たちは当時幼く、過去の災害を知らないことも。できること、やるべきことを考えるきっかけとして参加。保護者への情報発信や、震災・熊本地震・阪神淡路大震災についての学習、町役場職員からお話を聞くなどの事後学習で、生徒たちの理解を深めました。



**【群馬県 桐生高等学校】**  
災害支援のための募金活動を行っています。語り部さんのお話を伺うことで防災意識が高まりました。地域の防災対策について継続して研究を続け、文化祭での発表や、他校生や小中学生との合同研修会に繋がっています。



青少年赤十字防災教育プログラム  
「まもるいのち ひろめるぼうさい」  
ぜひご活用ください!



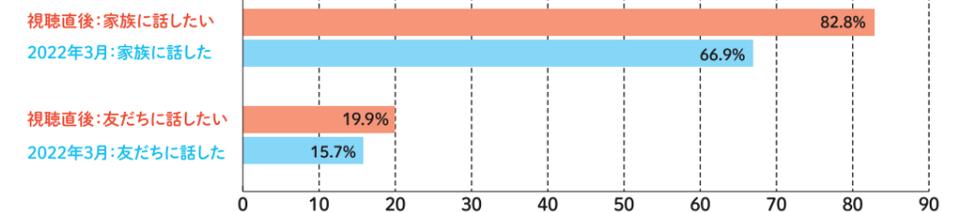
## 東北大学 災害科学国際研究所 佐藤翔輔准教授もJRC語り部LIVEを推薦!

防災教育のコツは「災害を我がこととして考えてもらう」ことにあります。その効果的な方法のひとつが、語り部さんから体験を聴くことで、災害を「追体験」「疑似体験」することです。ぜひ、ご参加いただき災害を乗り越える力を身につけましょう。

※参加する子どもたちへのアンケート調査の設計・分析で日赤と連携しています。

### 昨年度の調査結果

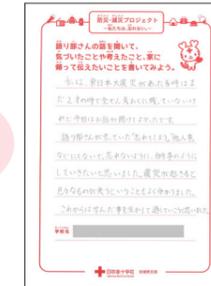
語り部LIVEを視聴して子どもたちにこんな**行動変容**が! n=1,088



語り部さんのお話を聞いた直後に「誰かに話したい」と思っていた子どもたちの多くが実際に語り部さんから聞いたお話を家族や友達に伝えています

### \\ 子どもたちの感想 //

- 震災があったのは2才のときでぜんぜん覚えていないけれどお話が聞けてよかったです。(小学生)
- 「いつか災害が起きる」ではなく、「今災害が起きたら」が大切だなと思いました。(中学生)
- 「自分は大丈夫。」などと油断することが危険だと知りました。(高校生)



### \\ 先生方のご感想 //

- 自分たちに語りかけてもらっていると子どもたちは集中して聞いていました。(小学校の先生)
- 東北修学旅行の事後学習として訪れた場所の理解が深まりました。(中学校の先生)
- 日常のホームルームや家庭でもこの話をもとに考えてくれました。(高校の先生)

参加校・参加者数\* ※年度により、時間・参加条件が異なるため、参加校・参加者数も異なります。

令和2年度…全国103校 10,951名  
令和3年度…全国58校 4,221名  
令和4年度…全国64校 5,784名

語り部さんのお話を多くの子どもたちに聞いてもらい、子どもたちが学校、家庭、地域で語り手となり、いのちを守ることが期待しています!



### 津波と原発事故の経験から未来へ

伝えるポイント  
・津波の被害と原子力災害  
・発見までの5年9か月

1月25日(木)16:00～16:30 高校生  
2月6日(火)11:00～11:30 中学生

**木村 紀夫** きむら のりお

1965年、福島県大熊町生まれ。東日本大震災の津波で家族3人を亡くし、更に原発事故によって捜索が阻まれる。次女汐風(ゆうな)の遺骨発見までに5年9か月を要し、いまだその8割は見つかっていない。そんな経験から「防災」と「豊かさへの疑問」について考える伝承を続けている。大熊未来塾代表



### あいりちゃんからの命のメッセージ

伝えるポイント  
・母の悲しみ  
・何気ない日常の大切さ

1月17日(水)11:00～11:30 小学校3・4年生  
2月14日(水)11:00～12:00 小学校5・6年生

**佐藤 美香** さとう みか

2006年に転動で石巻市へ引越し、震災の時は自宅で次女(3歳)と過ごしている時だった。長女(6歳)は高台(日和山)の私立幼稚園にいたため安心していましたが、その管理下で犠牲に。震災後は、「日和幼稚園遺族有志の会」を立ち上げ全国への発信を続けている。昨年から紙芝居「あいりちゃんからの命のメッセージ」を使った伝承活動を開始。2017年に書籍「ふたりのせかいりょう」を出版



### 90分プログラム 講師 「防災共創ワークショップ」

#### 人間理解を深めるファーストステップ

**齋藤 玲** さいとう りょう

東北大学 災害科学国際研究所 認知科学研究分野 助教

自己紹介  
博士(情報科学)。専門は、認知科学・心理学と、教育学。人間の認知や行動(世界の見え方・考え方)に関する基礎研究に関する成果を教育に应用到することに興味があります。現在、防災共創教育プロジェクトの柱として、学校教育における「防災共創授業(齋藤、印刷中)」を展開させ、「防災共創ワークショップ」をデザインしています。このワークショップでは、参加者の皆さんが日常生活や災害時においてよりよい行動ができるように、人間の認知や行動(世界の見え方・考え方)の特徴に対する科学的理解を促進することを目指します。



## 選べる3つのプログラム

**30分** 授業で取り入れやすいコンパクトな内容

接続チェック	はじまりの挨拶	石巻市内の被害概要と語り部さんの紹介	語り部さんのお話(20分)	まとめ	おわりの挨拶
--------	---------	--------------------	---------------	-----	--------

**60分** みんなで一緒に気づき・考えを深め合おう!

接続チェック	はじまりの挨拶	石巻市内の被害概要と語り部さんの紹介	語り部さんのお話(20分)	校内共有(20分)※	語り部さんへの質問・話し合ったことの発表など(9分)	事務局からフィードバック	おわりの挨拶
--------	---------	--------------------	---------------	------------	----------------------------	--------------	--------

※各校内での話し合い(20分)「自分たちの地域で災害が起きたらどうすればいいだろう?」

**90分** 認知バイアスを学ぶ防災学習をパッケージ! 講師:東北大学 災害科学国際研究所 齋藤玲 助教

接続チェック	はじまりの挨拶	石巻市内の被害概要と語り部さんの紹介	語り部さんのお話(20分)	防災共創ワークショップ(60分)	おわりの挨拶
--------	---------	--------------------	---------------	------------------	--------

※人間の認知・行動(世界の見え方・考え方)には、特徴的な性質(例えば、認知バイアス)があります。人間は、周囲に合わせた、自分は大丈夫だと思う傾向(=認知バイアス)があり、災害時にはそれが逃げ遅れの原因になることがあります。「防災共創ワークショップ」では、クイズやグループワークを通して認知バイアスを知り、日常生活や災害時に生かすことを目指します。

多くの学校にご参加いただけるよう、回線減のご相談をさせていただく場合がございます。 ※目安:1クラスにつき30分:各回につき先着90回線まで 60分:各回につき先着5校まで 90分:各回につき先着5校まで 1台のパソコン=1回線

**開催日程** 対象が異なる校種の配信回にも、もちろん参加いただけます。ご都合の良い日程にご参加ください!

### 小学校3・4年生

30分プログラム	時間	1月17日(水)	1月30日(火)
	11:00～11:30	佐藤 美香	高橋 正子
	13:30～14:00	菊池 のどか	菊池 のどか

60分プログラム	時間	2月15日(木)
	11:00～12:00	岩倉 侑

90分プログラム	時間	2月15日(木)
	13:30～15:00	岩倉 侑

### 小学校5・6年生

30分プログラム	時間	1月18日(木)	1月31日(水)
	11:00～11:30	高橋 正子	高橋 匡美
	13:30～14:00	阿部 任	紺野 堅太

60分プログラム	時間	2月14日(水)
	11:00～12:00	佐藤 美香

90分プログラム	時間	2月14日(水)
	13:30～15:00	武山 ひかる

### 中学生

30分プログラム	時間	1月24日(水)	2月6日(火)
	11:00～11:30	高橋 匡美	木村 紀夫
	13:30～14:00	武山 ひかる	千葉 颯丸

60分プログラム	時間	2月22日(木)
	11:00～12:00	紺野 堅太

90分プログラム	時間	2月22日(木)
	13:30～15:00	菊池 のどか

### 高校生

30分プログラム	時間	1月25日(木)	2月7日(水)
	14:30～15:00	田村 孝行	千葉 颯丸
	16:00～16:30	木村 紀夫	田村 孝行

60分プログラム	時間	2月22日(木)
	11:00～12:00	紺野 堅太

90分プログラム	時間	2月20日(火)
	13:30～15:00	阿部 任

### 「命ってなんだろう?」

伝えるポイント  
・震災3日後にたどり着いた故郷の状況  
・「明日が来る」のは奇跡だということ  
・今を大切に生きていくこと

1月24日(水)11:00～11:30 中学生  
1月31日(水)11:00～11:30 小学校5・6年生

**高橋 匡美** たかはし きょうみ

震災で、生まれ故郷である石巻市南浜町一帯、実家、そしてそこで暮らしていた両親を亡くす。その心の傷から自宅に籠る日々が続いたが、2014年自分の経験や心の内を「メモリスピーチコンテスト」で語り、全国大会で銀賞を受賞。現在「命のかたりべ」として、「今」を生きる大切さを伝えている。活動の様子はFacebook「命のかたりべ」にて報告。



### 小・中学生にできること、やるべきこと

伝えるポイント  
・災害が起きる前にできる備え  
・自分の命を守るためにできること  
・防災教育を受ける側の視点から見た防災教育の重要性

1月17日(水)13:30～14:00 小学校3・4年生  
2月22日(木)13:30～15:00 中学生

**菊池 のどか** きくち のどか

釜石東中学校2年生の時に、防災担当の整美委員長となる。3年生の3月11日に東日本大震災が発生し、隣接する小学校の児童とともに避難する。その経験をもとに、2019年4月より、いのちをつなぐ未来館職員として語り部・ガイドを行う。2021年5月より、誰でもわかる・取り組むことができる防災教育の推進を目指し、神戸出身の2人の仲間とともに株式会社8krusuを立ちあげ活動中。



語り部さんのお話を聞いて実施する「防災共創ワークショップ」では、人間の認知と行動(世界の見え方・考え方)の特徴を学習することで、語り部さんの体験をより深く理解することができ、同時に子どもたちが災害時だけでなく普段からよりよく生きていくための力になります。

### 災害時の「ダメな」お手本

伝えるポイント  
・津波避難の大切さ  
・非常時の判断の難しさ

1月18日(木)13:30～14:00 小学校5・6年生  
2月20日(火)15:30～17:00 高校生

**阿部 任** あべ じん

震災時は高校一年生。石巻市門脇町の実家で祖母と2人の時だった。裏山に避難せず2階にいたところ、家ごと津波に流れ9日後に救出された。判断を誤り、多くの人に迷惑をかけてしまった後悔と、メディアでは奇跡の救出として報じられたことによる世間とのギャップに悩んだ経験を語る。



### 今、自分にできること(自分と家族の心と命を守るために)

伝えるポイント  
・震災当時の状況  
・震災後の子どもの気持ち  
・これからの目標

1月24日(水)13:30～14:00 中学生  
2月14日(水)13:30～15:00 小学校5・6年生

**武山 ひかる** たけやま ひかる

震災時は小学校4年生。地震後、家族と車で高台に避難したが、寒さのため自宅に戻ろうとしてしまい危険な状況に。自宅は全壊したため避難所から小学校に通った。震災後、多くの人が辛い思いをしたことを知り「事前に知識があれば」という思いと共に、あの時の子どもの気持ちも伝えている。2021年、震災関連の絵本「ひとりじゃない」を出版し、電子書籍で現在も販売している。



### 社会人になる前に、知っておきたいこと!

伝えるポイント  
・息子のいのちからの学び(企業・組織防災)  
・いのちが一番、人生の歩み方

1月25日(木)14:30～15:00 高校生  
2月7日(水)16:00～16:30 高校生

**田村 孝行** たむら たかゆき

東日本大震災の津波により、銀行という企業管理下で当時25歳の息子を亡くした。いのちの大切さや、安全な社会に向けてどうあるべきか、息子・健太より多くの事を学んだ。この学びを次世代へ繋げるために、いのちを守る防災講演(企業・組織防災)・いのちの学習の講演をし、命のバトンを渡す活動を続けている。



### Q & A

Q.いろいろな語り部さんのお話が聞きたいです。複数の日程で視聴してもよいですか。

A.視聴可能です。

Q.対象の日程に参加できません。

A.例えば、都合に合わせて小学校であっても対象をまたいで中学校の日程に参加いただくことも可能です。対象別に言葉遣いを変えていますので、その点はご了承ください。

Q.ZOOMのアプリがないと視聴できませんか。

A.ブラウザからも視聴いただけますが、接続が不安定になる場合にはアプリでの視聴をおすすめします。

Q.録画視聴はできますか。

A.語り部さんの意向により、録画配信は行っていません。(第三者にお話の一部が切り取られて引用されるのを防ぐため)生配信での参加のみ受付となりますので、予めご了承ください。

Q.当日接続がうまくできないか不安です。

A.参加校にメールでお送りするURLに正しくアクセスいただくと、○月▲日□:□～開催予定ですという表示が画面上に出できます。また、当日の配信30分前から入室可能としていますので、早めの接続確認が安心です。

Q.参加中、自校だけ音声が聞こえません…

A.インターネット通信の安定している環境での視聴、ZOOM上の音声に関する設定をご確認ください。開始前にアナウンスを行いますので、その声が届いているかご確認ください。

Q.当日注意することはありますか。

A.子どもたちの様子が語り部さんに見えるように配信中はカメラをオンにしてください。また、雑音が入らないようマイクはミュートにしてください。

### 災害から命を守るために知って欲しいこと

伝えるポイント  
・住んでいた地域の被災状況  
・震災直後の息子の避難行動

1月18日(木)11:00～11:30 小学校5・6年生  
1月30日(火)11:00～11:30 小学校3・4年生

**高橋 正子** たかはし しょうこ

震災当時、海に近い自宅には高校生の息子と義理の母がいた。大津波警報が防災無線から聞こえるなか、家族とは連絡が取れず、道路は寸断され自宅に戻ることはできなかった。翌日、地区全体が津波に襲われ自宅も含め流出したことを知る。2016年より伝承活動に携わり、一昨年から地区の裏山に逃げた息子の様子を絵本「なべのなった鐘」より紙芝居で紹介している。



### 「防災」とは

伝えるポイント  
・皆さんにとって「防災」とは?  
・避難する為に今日から出来る備え3点

1月31日(水)13:30～14:00 小学校5・6年生  
2月22日(木)11:00～12:00 中学生・高校生

**紺野 堅太** こんの けんた

岩手県釜石市出身。釜石東中学校1年生の時に東日本大震災を経験。「釜石の奇跡」の一人として率先避難を行い、鶴住居小学校や近隣住民と共に生き延びる。中学2年生時は隣の中学校の校舎を間借り、3年生は仮設校舎で過ごし、1年毎に校舎が変わる中学時代を過ごす。釜石東中学校では語り部活動、大槌高等学校では復興活動に取り組む。愛知県の企業に勤めながら2022年から震災語り部活動を開始。



### 大学生と考える、あの日のこと

伝えるポイント  
・小学生から見た東日本大震災  
・ほぼ最年少の語り部  
・未災地に対し思うこと

2月15日(木)11:00～12:00 小学校3・4年生  
2月15日(水)13:30～15:00 小学校3・4年生

**岩倉 侑** いわくら あつむ

宮城県石巻市で小学2年生の時に被災する。門脇小学校(※現在は震災遺構)から高台へ逃げて助かるも、自宅と学校を津波で失う。進学を機に宮城を離れ、現在は名古屋大学に通う現役の大学生。未災地での伝承ニーズを感じ、大学1年の秋から東海地方を拠点に語り部として活動する。活動開始後の約30回の講演のうち、半数以上を学校や児童館で行い、子供から見た東日本大震災を伝えている。



### Listen to the Pain

伝えるポイント  
・当時17歳の高校生の視点からの東日本大震災の経験  
・その後ほとんどの期間を宮城から離れて過ごしていた時の感情  
・自分にとって震災がもたらしたもの

2月6日(火)13:30～14:00 中学生  
2月7日(水)14:30～15:00 高校生

**千葉 颯丸** ちば かせまる

2011年、17歳の高校生の時に東日本大震災を経験。石巻市南浜町に住んでいた大切な祖父母を津波で亡くす。震災から3日後に母と共に現場に到着し祖母の遺体を発見、その後母が遺体安置所の中から祖父の遺体も発見した。震災後のほとんどの期間を東京で生きてきたので、母とは異なる視点で、震災を起点として故郷、祖父母の死、両親と向き合ってきた経験を日英両語で話し始めている。



宮城県支部 住所:〒981-3117 仙台市泉区市名坂字石止44番7  
TEL:022-725-7530 FAX:022-725-5150  
MAIL:houshi@miyagi.jrc.or.jp

HPはこちら

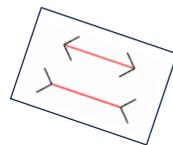
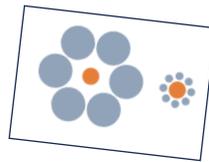


# JRCオンライン語り部LIVE

## ＼ 90分プログラム ／

参加  
無料

### 認知バイアスを学ぶ防災学習をパッケージ!



## 概要

人間は、周囲に合わせたり、自分は大丈夫だと思う傾向(＝認知バイアス)があり、災害時にはそれが逃げ遅れの原因になることがあります。「防災共創ワークショップ」では、クイズやグループワークを通して認知バイアスを知り、**日常生活や災害時に生かすことを目指します。**

### クイズ

人間のモノの見え方の特徴 “ 錯覚、あいまいな言葉・表現 etc … ” をクイズで学びます。

### グループワーク

人間のモノの考え方の特徴 認知バイアス(周囲に合わせる＝集団同調性バイアス、自分は大丈夫だと思う＝正常性バイアスなど)が災害時にはどのように影響するのか、良い例・悪い例をもとに、みんなで話し合います。

## 開催日程

### 対象

2.14 (水) 13:30～15:00 [小5・6年生]

2.15 (木) 13:30～15:00 [小3・4年生]

2.20 (火) 15:30～17:00 [高校生]

2.22 (木) 13:30～15:00 [中学生]

※対象が異なる校種の回にももちろん参加いただけます!

人間の認知と行動(世界の見え方・考え方)の特徴を学習することで、語り部さんの体験をより深く理解することができ、同時に子どもたちが災害時だけでなく普段からよりよく生きていくための力になります。



## お申し込み方法

お申込みはMicrosoft Forms から受け付けます。

<https://forms.office.com/r/WXPh95QhrD>



## 講師 齋藤 玲

東北大学 災害科学国際研究所 認知科学研究分野 助教  
博士(情報科学)。専門は、認知科学・心理学と、教育学。  
人間の認知や行動(世界の見え方・考え方)に関する基礎研究に関する成果を教育に応用することに興味があります。  
現在、防災共創教育プロジェクトの柱として、学校教育における「防災共創授業(齋藤,印刷中)」を発展させ、「防災共創ワークショップ」をデザインしています。

 日本赤十字社 宮城県支部  
Japanese Red Cross Society

【担当】事業推進課 ボランティア係  
〒981-3117 仙台市泉区市名坂字石止44番7  
電話: 022-725-7530 FAX: 022-725-5150  
Mail: houshi@miyagi.jrc.or.jp